

<NEWS RELEASE>

報道関係各位

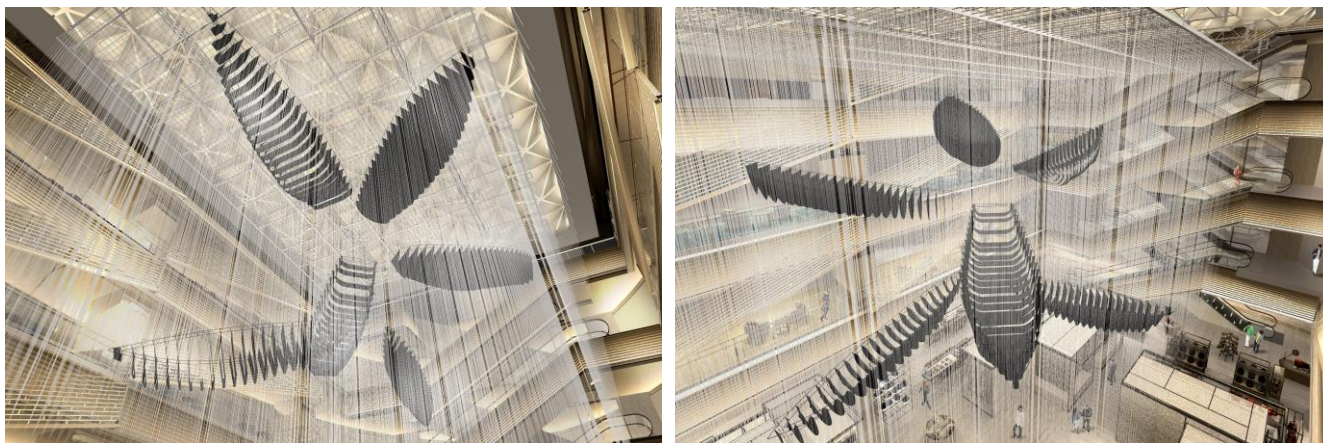
2019年1月22日

GINZA SIX リテールマネジメント株式会社

開業以来、3 作品ぶりに日本人アーティストを起用
GINZA SIX 中央吹き抜け新作アートを発表
世界を舞台に活躍するアーティスト・塩田千春が
前進する「6つの船」をテーマに、全長5メートルの船を展示

銀座エリア最大の商業施設「GINZA SIX」では、2019年2月27日(水)～10月31日(木)までの期間、施設中央に位置する吹き抜け空間に、アーティスト・塩田千春による新作インスタレーション「6つの船」を展示します。

GINZA SIXの開業以来、3 作品ぶりの日本人アーティスト起用となる新作アートを手掛けるのは、ベルリンを拠点として国際的に活躍し、2019年6月から過去最大規模の個展開催が控えているアーティスト・塩田千春。本作品は、「6つの船」をテーマに全長5メートルの6隻の船が中央吹き抜け空間を飾ります。これまでも塩田氏の作品にはしばしば船がモチーフとして用いられてきました。船は人や物だけでなく、時間をも運びながらいずれかの方向に前進するものであり、「存在とは何か。生きているとはどういう意味なのか。私たちは何を求めて、どこへ向かおうとしているのか」を追求してきた塩田氏の問いに共鳴しています。新作アートでは、戦後多くの困難を乗り越えて復興を遂げてきた銀座の「記憶の海」を6隻の船が出航し、前進する様子を表現しています。6隻の船は異なる高さや向きで配置されているため、GINZA SIXの各フロアから見え隠れする船を眺めながら、ふと異次元を訪れるような想像の旅をお楽しみいただけることでしょう。



※画像はイメージです。予告なく変更になる場合があります。

GINZA SIXの象徴とも言える中央吹き抜け空間では、これまでに草間彌生、ダニエル・ビュレン (Daniel Buren)、ニコラ・ビュフ (Nicolas Buffe) といった世界で活躍するアーティストの作品を展示し、クリエイティブなエネルギーと驚きの要素に満ちた、感性を刺激するアートプログラムを展開してきました。本作品では草間彌生、ダニエル・ビュレンの作品に続いて森美術館が監修を務めており、館内各所にも国内外で活躍する注目アーティストの作品を常設展示しています。

銀座および東京の文化発信拠点として、お客様が身近にアートと触れ合える機会を創出し、より豊かな生活を提案するGINZA SIXの取り組みにぜひご注目ください。

<本件に関する報道関係者からのお問合せ先>

GINZA SIX PR 事務局 (株式会社サニーサイドアップ内) 担当: 関(せき)、山口
TEL: 03-6894-3200 FAX: 03-5413-3050 E-MAIL: ginzasix_pr@ssu.co.jp

新作インスタレーション概要

鉄棒、フェルト、ロープの素材で作られた全長 5 メートルの 6 隻の船が、空間全体に張り巡らせた無数の白い糸によって吊り下げられており、鑑賞する位置や視線の高さによって見え方が変化する様子をお楽しみいただけます。近代日本の歴史が詰まっている銀座において、様々な困難を乗り越え、その度に発展を続けてきた銀座の“記憶の海”を出航し、前進する様子を表現しています。

【 作 品 名 】 6 つの船

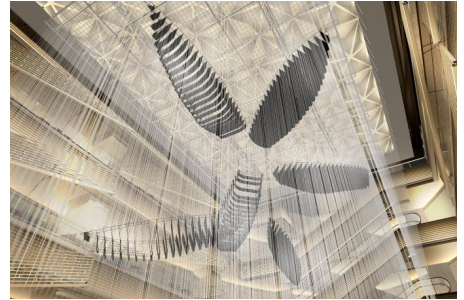
【アーティスト名】 塩田千春

【展 示 場 所 】 GINZA SIX 中央吹き抜け

【展 示 期 間 】 2 月 27 日(水)～10 月 31 日(木)予定

【 サ イ ズ 】 全長 14 メートル×高さ 8.5 メートル

※船は 1 隻あたり全長 5 メートル



※画像はイメージです。

アーティスト・塩田千春メッセージ

船は人や物を運ぶだけではなく、時間も運ぶ。私の作品のテーマである「存在とは何か、生きているということはどういう意味なのか」や「私たちは何を求めて、どこへ向かおうとしているのか」という問いに寄り添っています。ここ数年船を作品に使っているのは、それぞれに方向性があり前進する、という意味も含まれているからです。

銀座には様々な記憶の中に人々の物語があります。幾度となく銀座を襲った震災や空襲の度に復興し、たくさんの困難を乗り越えて復活してきた銀座は日本の歴史の象徴かもしれません。

約 25 年前、銀座の画廊を見て、なんとかここで個展ができないかとクタクタになりながら、カバンの中に作品のポートフォリオを入れて歩き回っていました。アーティストとして作品を作って発表をしていくという壁の高さを、ただ思い知ったのも銀座でした。今回、GINZA SIX の吹き抜けを使って作品の発表ができることをとても嬉しく思います。



Photo: Sunhi Mang

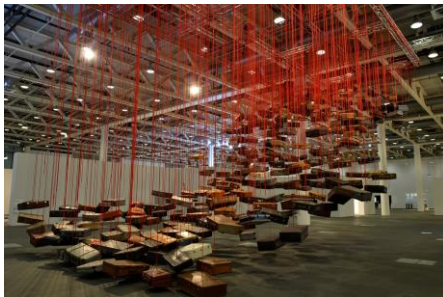
塩田千春プロフィール

1972 年、大阪府生まれ。ベルリン在住。

2008 年、芸術選奨文部科学大臣新人賞受賞。南オーストラリア美術館(2018 年)、ヨークシャー彫刻公園(2018 年)、スミソニアン博物館アーサー・M・サックラー・ギャラリー(2014 年)、高知県立美術館(2013 年)、丸亀市猪熊弦一郎現代美術館(2012 年)、国立国際美術館(大阪、2008 年)などの個展のほか、シドニー・ビエンナーレ(2016 年)、キエフ国際現代美術ビエンナーレ(2012 年)、横浜トリエンナーレ(2001 年)を含む国際展など、これまで世界約 35 か国で 250 展以上の展示に参加。

2015 年には第 56 回ベネチア・ビエンナーレ国際美術展日本館代表。2019 年 6 月に森美術館にて過去最大規模となる個展を開催予定。

<過去の作品>



《集積一目的地を求めて》

2016 年

スーツケース、モーター、赤ロープ

展示風景:「アート・アンリミテッド」アートバーゼル
(スイス)2016 年

Courtesy: Galerie Templon

撮影: Atelier Chiharu Shiota



《静けさの中で》

2008 年

焼けたピアノ、焼けた椅子、黒毛糸

展示風景:「存在様態」バスケットセンター(スイス、
ビール/ビエンヌ)2008 年

撮影: Sunhi Mang

<関連情報>**森美術館にて塩田千春の過去最大規模の個展を開催**

塩田千春の過去最大規模の個展が、6月20日(木)より森美術館で開催されます。大規模なインスタレーション6点を中心に、立体作品、パフォーマンス映像、写真、ドローイング、舞台美術の関連資料などを加え、20年にわたる活動を網羅的に体験できる初めての機会になります。「不在のなかの存在」を一貫して追究してきた塩田の集大成となる本展を通して、生きることの意味や人生の旅路、魂の機微を実感していただけることでしょう。

展覧会名:「塩田千春展:魂がふるえる」

主催:森美術館

企画:片岡真実(森美術館副館長 兼 チーフ・キュレーター)

会期:6月20日(木)～10月27日(日)

会場:森美術館(東京都港区六本木6-10-1 六本木ヒルズ森タワー53F)

時間:10:00～22:00(最終入館 21:30)※火曜日のみ 17:00 まで(最終入館 16:30)

料金:一般 1,800 円、学生(高校・大学生)1,200 円、子供(4歳～中学生)600 円、
シニア(65歳以上)1,500 円

お問い合わせ:03-5777-8600(ハローダイヤル)

詳細:<https://www.mori.art.museum/jp/exhibitions/shiotachiharu/index.html>



《不確かな旅》
2016年
鉄棒、赤毛糸
展示風景:「不確かな旅」ブレイク |
サザン(ベルリン)2016年
撮影:Christian Glaeser

<GINZA SIX 基本情報>

【TEL】03-6891-3390 (GINZA SIX 総合インフォメーション 受付時間 10:30～20:30)

【ADDRESS】〒104-0061 東京都中央区銀座6丁目10-1

【HP】<http://ginza6.tokyo/>

□営業時間 ショップ・カフェ(B2F～5F) 10:30～20:30 レストラン(6F、13F) 11:00～23:00

※一部営業時間が異なる店舗もございます。

□休業日 不定休 ※2月25日(月)、26日(火)はショップ&レストランは休業となります

□アクセス 東京メトロ 銀座線・丸の内線・日比谷線「銀座」駅から地下通路にて直結
駐車場完備(お買い上げ金額に応じたサービス有)